

2018年度(平成30年度)学校評価自己評価表

千年中学校区	校番 70	福山市立能登原小学校
最終更新日	2019年(平成31年)2月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型「スキル&倫理観」」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 生徒が朝起きたら「学校へ行きたい」という気持ちになる学校を創ってもらいたい。 生徒数が減少する傾向にある沼隈であるが、家庭と学校が今以上にフランクに相談できる体制を作ってもらいたい。 地域にもっと学校の顔が見えるようにしてもらいたい。 	児童生徒の現状 <input type="checkbox"/> 学力調査県平均以上項目率…小学校 40%, 中学校 25% <input type="checkbox"/> (基礎・基本定着状況調査生徒質問紙より肯定的回答) <ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しい」…小学校約 89%, 中学校約 96% 「授業が分かる」…小学校約 83%, 中学校約 89% <input type="checkbox"/> 体力調査県平均以上項目率…小学校約 66%, 中学校約 31% <input type="checkbox"/> 朝食摂取率…小学校約 95%, 中学校約 91% <input type="checkbox"/> 規範意識に係る肯定的回答…小学校約 93%, 中学校約 98% <input type="checkbox"/> 地域への愛着・誇り…小学校約 83%, 中学校約 87%	育成する力 (21世紀型「スキル&倫理観」) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「つながりがあり、確かに身に付いた知識」、「思考力・判断力・表現力」「主体性・積極性」、「深い思考と創造性」、「自らへの自信と共感力」 〇 関わり合いを通して、自分の思いや考えを分かりやすく表現できる。 〇 沼隈・福山に愛着と誇りを持ち、主体的に考え、判断し、行動できる。 <ul style="list-style-type: none"> 「読解力を育み、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり」を校区の研究主題とし、テキストを正しく読み取り、比較・分類・関連付けて思考を深め、根拠を持って判断し、分かりやすく表現する力を育成 示範授業、理論研修等を通して、主体的・対話的で深い学びのある「校区で目指すべき授業の姿」を共有 中学校教員による小学校への交流授業実施、中学校の試験発表期間中の校区一斉家庭学習強化週間(スティーウィーク)実施、校区一斉挨拶運動(毎月17日)、校区一斉地域清掃活動等の実施 総合的な学習の時間を中心に、ESD・ふるさと学習の観点で9年間を系統立て、教科とのつながりの明確化
---	---	--	--

III 自校

ミッション 知・徳・体の基礎基本を徹底し、児童一人ひとりに国際社会で生きる力を身に付けさせるとともに沼隈・福山に愛着と誇りを持たせ、地域社会の活性化に貢献できる人間を育成する。	学校教育目標 自ら伸びる子どもの育成	現 状 (〇良さ、●課題) <児童> 〇規範意識が高く、自ら進んで自主的に動く児童が多い。 〇行動、授業で仲間と協力し合い高まりおおうとする児童が多い。 〇能登原への愛着や誇りを持つ児童は95%である。 ●「分かる」手応えから、定着へ、さらに身に付けた知識・技能を使いこなすことに課題がある。 ●情報を正しく読み取り、どう表現すべきか・題意・課題に応じた適切な表現に課題がある。	育成する力 (21世紀型「スキル&倫理観」)	知識 確かに身に付いた知識 知	スキル 表現力 表	意欲・態度 主体性 目	価値観・倫理観 共感力 共			
<授業> 〇児童と共に学習計画を作成・掲示し、見通しを持たせた学習を展開することができた。 〇課題解決につながる「ペア・グループ学習」を位置付け、仲間と関わり合いながら、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。 ●対話によって、自己の考えを広げること、知識の共有化を図ること等の「関わり合い」の場の設定の仕方や効果的な手立てが確立していない。	めざす子ども像	低学年 〇繰り返し使うことができる知識・学んだことを忘れないように、復習して身に付けている。 ・学んだことを使いながら新しい知識を身に付けている。	中学年 〇様々なことから始めて、身に付けた知識・他のものと結び付けて、より多くの確かな知識を身に付けている。	高学年 〇関連性、発展性と有用感のある知識・身に付けた知識が、問題解決の際に活用することができる。 ・身に付けた知識が、どのように今後の学習へ発展していくか考えることができる。	低学年 〇最後まで、わけとともに述べることができる。 ・「ぼくは～だと思います。わけは、〇〇だからです。」 ・みんなに聞こえる声で最後まで言い切る。 〇順序立てて述べることができる。 ・「まず～。次に～。それから～。さいごに～。」	中学年 〇理由や事例などを挙げながら、筋立てて述べるができる。 ・「たとえば、～」 ・「この写真を見てください。～」	高学年 〇相手の意図を持って、自分の考えを分かりやすく述べるができる。 ・自分の思いを大勢の前でも堂々と述べる。 ・比べたり、まとめたりして考えたことを要点をしばべて述べる。 ・「まとめていこう～。」	低学年 〇自分達の生活をよりよくするために、進んで取り組んでいる。 ・進んで自分の役割(目直や係の仕事など)に取り組んでいる。 ・自分達で課題やめあてを考える。 ・積極的に発言している。	中学年 〇自分達の生活をよりよくするために、進んで取り組んでいる。 ・自分の考えを述べる前に相手の思いを受け止めて聴いている。(うなずき) ・人がうれしくなる言葉を使う。	高学年 〇人への思いやり、進んで人のために行動している。 ・がんばっている友達を支えたり、応援したりしている。 ・下級生の世話を進んでする。 ・友達のことを考えて注意する。
研究	教科等 体育科 理科・生活科	主題・内容等 「児童が主体的に、関わり合う中で、確かな力を育む授業づくり」 ・児童が主体的に学ぶための学習活動の工夫 ・児童同士が、「関わり合う(学び合う)」学習活動の工夫 ・比較、分類、関連付け、違いの見出し等の「思考ツール」を活用する授業デザイン	めざす授業の姿	・情報の整理・分析、既習事項の関連付け等から、見通しを持ち課題解決させる。 ・児童同士が関わり合いながら、「思考ツール」を活用して自分の考えを深化させる。						

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立能登原小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期/中期経営 目標の達成状況	達成 評価	総合 評価	改善方策		
2	「自ら考え学 ぶ授業」づく りの推進	★	継続	○関わり合いを 通して、思考 力・判断力・表 現力を高める 課題発見・解決 学習の推進 ・標準学力調査 国語科・算数科において 全国平均以上	①【興味・関心を高める課題設定】 ・「解決したい」と思わせる 導入発問等の工夫。 主 ②【関わり合いの場の設定】 ・目的を明確にした「ペア・ グループ学習」の場を 設定。 共 ③【思考ツールの活用】 ・比較、分類、関連付けの 思考ツールを活用。 ・情報を整理・分析し、判 断した自分の考えを書 き表させる。 知 表	①「解決しようとする課題に ついて、『なぜだろう』『やっ てみたい』と思う」 児童肯定的回答90%以上 ②「授業で、仲間と話し合う等 して、自分の考えを深め たり、広げたりしている」 児童肯定的回答90%以上 「目的を明確にした関わり合いの場の設定」 教職員肯定的回答100% ③「授業で、比較、分類、関 連付けして考えている」 児童肯定的回答80%以上 「思考ツールの活用」 教職員肯定的回答100%	□児童アンケート 「『なぜだろう』 『やってみよう』 と答える 児童の割合は、 90.7%であった。	3	3	今後も、教材研究、 分析を行い、教科の 本質にせまる導入発 問等の工夫を続け、 児童の問題解決を促 す。 ホワイトボード等を より活用し、関わり 合いを持たせ、考え を深めさせるための 学習形態等の工夫に ついて研究を進めて いく。 引き続き、思考ツ ールの活用について研 究を進めていき、効 果的な活用方法を見 つけていく。	◎標準学力テストの結果は以 下の通りであった。 国語科(±全国平均) 【1年】92.4(△10.2) 【2年】87.0(△1.9) 【3年】78.9(△7.0) 【4年】83.9(△10.3) 【5年】79.3(△4.6) 【6年】77.5(▼2.5) 算数科(±全国平均) 【1年】86.5(△0.7) 【2年】70.6(▼3.8) 【3年】78.3(△4.6) 【4年】86.9(△17.0) 【5年】72.8(△0.4) 【6年】70.8(▼4.1) □児童アンケート「『なぜだ らう』『やってみよう』 と答える児童の割合は、8 2.5%であった。 □児童アンケート「授業で、 仲間と話し合う等して、自 分の考えを深めたり、広げ たりしている」と答える児 童の割合は、82.5%であ った。 □「目的を明確にした関わり 合いの場を設定している」 と肯定的に答えた職員は 100%であった。 □児童アンケート「授 業で、比較、分類、関連 付けして考えている」と 答える児童の割合は、 85.0%であった。 □「思考ツール」を活用し ていると肯定的に答えた 職員は100%であった。	3	3	3	教科の本質に迫り、 さらに児童の興味や 関心を高める導入、 ペア・グループ学習 の位置付け等、児童 の主体的な学びを促 す。 話し合いの内容を可 視化できるホワイト ボードの活用で、児 童同士が関わり合 い、考えを深めさせ るための活動につ いて研究を続けてい く。 思考ツールの活用に よって、成果や課題 を整理し、効果的な 活用方法を見つけて いく。
2	主体的に行動す る児童の育成		継続	○時と場に 応じ、自ら 考え、判断 し、行動し、 その結果に 自信が持てる 児童の育成 ・「人が困っているとき、進んで助ける」 児童肯定的回答95%以上	①【生活信条の意識強化・行動化】 ・「時を守り、場を清め、礼 を尽くす」の集団生活 の意識強化と行動化。 主 ②【奉仕活動の設定】 ・学校行事や児童会活動 として、奉仕活動の機 会をより多く設定する。 共	①「日常的に、学校の決まり を意識し、行動している」 児童肯定的回答100% ②「自分から進んでみんな のために尽くした」 児童肯定的回答95%以上	□児童アンケート 「学校の決まりを 守っている」と答 える児童の割合 は、96.1%であ った。 □児童アンケート 「みんなのために 自ら進んで行動す ることができる」 と答える児童の割 合は、90.2%であ った。	3	3	きまりを守ることが、みん なの楽しい学校生活につ ながることを理解させ、 「学校のきまり」を全児童 に配布し意識させる。守る ことができている児童を 評価し、自己肯定感を高め る。 学校行事、児童会活動を軸 に自己有用感の高まる活 動を仕組む。その活動にお いて、進んで働いている児 童のがんばりを評価し、次 の活動の意欲へとつなげ ていく。	◎児童アンケート「人が 困っている時、進んで 助ける」と答える児童 の割合は、90.0%であ った。 □児童アンケート「学校の 決まりを守っている」 と答える児童の割合 は、95.0%であ った。 □児童アンケート「みんな のために自ら進んで行動 することができる」と答 える児童の割合は、 87.5%であった。	4	4	4	「学校のきまり」につ いては、学期はじめに 全校児童に配布し意 識させる。児童会目標 に定期的に位置付け、 守れたという自己肯 定感を持たせる。 「みんなのために自 ら進んで行動する」た めに、学校行事、児 童会活動の中で、学 校のため、地域のため に働いているという 意識を持たせる。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立能登原小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期/中期/経営 目標の達成状況	達成 評価	総合 評価	改善方策		
2	基礎体力の向上		継続	○基本的生活習慣の定着と基礎体力向上の推進 ・新体力テスト結果 県平均以上項目 65/80 以上	①【校区分標準の意識強化】 ・「校区分標準」を指標に基本的生活習慣を定着させる。 [国] ②【体力テストの弱点補強】 ・自らの課題を認識させ、課題克服の必要性を指導し、家庭でもできる基礎トレーニングを啓発。 [国]	①「日常的に、校区分標準を意識している」 児童肯定的回答85%以上 「毎日朝食を食べている」 児童肯定的回答100% ②「自分の体力に関する課題を意識し、その改善に取り組んでいる」 児童肯定的回答85%以上 「5分間運動に積極的に参加している」 児童肯定的回答85%以上	□児童アンケート「日常的に、校区分標準を意識している」と答える児童の割合は、84.3%であった。 □児童アンケート「毎日朝食を食べている」と答える児童の割合は100%であった。 □児童アンケート「自分の体力に関する課題を意識し、その改善に取り組んでいる」と答える児童の割合は、94%であった。 □児童アンケート「5分間運動に積極的に参加している」と答える児童の割合は、86.3%であった。	3	3	引き続き、通信等で家庭と連携をし、早寝早起朝ごはんの大切さを児童自ら意識させるとともに5分間運動の評価や声かけを行っていく。 朝トレーニングや体育科の授業の中で課題克服のための基礎トレーニングの方法を指導する。 引き続き、5分間運動の取り組みを徹底させる。	◎新体力テストにおいて、県平均以上の項目は63/80であった。 □児童アンケート「日常的に、校区分標準を意識している」と答える児童の割合は、80.0%であった。 □児童アンケート「毎日朝食を食べている」と答える児童の割合は100%であった。 □児童アンケート「自分の体力に関する課題を意識し、その改善に取り組んでいる」と答える児童の割合は、80.0%であった。 □児童アンケート「5分間運動に積極的に参加している」と答える児童の割合は、80.0%であった。	4	4	4	基本的生活習慣の確立について学級会・給食時間等で指導し児童自ら意識させたり、通信等で家庭と連携をしたりする。 5分間運動の取り組みを徹底させ、評価や声かけを行っていく。 運動会・体育発表等に向けての自己の課題を認識させ、朝トレーニングや体育科の授業の中で課題克服のための基礎トレーニングの方法を指導する等、さらに体力の向上を目指していく。
2	地域に愛着を持ち、地域に貢献し、地域を誇りに思う児童の育成	★	継続	○地域と結び付いた活動や集団で協力し合い高まる活動を通じて、地域と自校に愛着と誇りを持つ心の育成 ・「自分が住んでいる地域が好き」 児童肯定的回答95%以上 ・「学校へ行くのが楽しい」 児童肯定的回答90%以上	①【総合的な学習とのつながり強化】 ・「ふるさと学習」「ESD」の視点で、「総合的な学習」と各教科・領域及び行事の「つながり」強化。 [国] ②【積極的な情報発信】 ・HPや通信等を通じて地域・保護者に積極的に情報を発信する。 ③【教職員の力量向上】 ・「福山100NEN教育」の趣旨を踏まえ、「課題発見・解決学習」の研究推進に取り組む。	①「能登原の町がすきだ」 児童肯定的回答95%以上 「学校に行くのが楽しい」 児童肯定的回答90%以上 ②「学校の様子がよく分かる」 保護者肯定的回答95%以上 ・「学校・地域でさわやかな挨拶」 児童肯定的回答95%以上 ③「目指す児童の姿を明確にし、『課題発見・解決学習』の単元開発をした」 教職員肯定的回答80%以上 ・「教育活動に意義ややりがいを感じる」 教職員肯定的回答80%以上	□児童アンケート「能登原の町がすきだ」と答える児童の割合は、96.1%であった。 □児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」と答える児童の割合は、80.4%であった。 □保護者アンケート「学校の様子がよく分かる」と答える保護者の割合は、84.9%であった。 □児童アンケート「さわやかな挨拶をしている」と答える児童の割合は、92.2%であった。 □教職員アンケート「課題発見・解決学習の授業を追究している」と答える教職員の割合は、100%であった。 □教職員アンケート「教育活動に意義ややりがいを感じる」と答えた割合は、100%であった。	3	3	今後も地域の方や施設等と連携を図り、地域とつながりを持った教育活動を実施していく。 主体的な学びを追究し、学びが楽しいと実感させる教育活動を展開していく。 HPや通信等を通じて、児童の様子を積極的に発信していく。 校区あいさつ運動を軸にさわやかなあいさつを奨励していく。 引き続き、校内研修を軸に、アクションプランに基づいた授業づくりを進めていく。 教職員の意識が子どもにつながっていくようより取組みを進める。	◎児童アンケート「能登原の町がすきだ」と答える児童の割合は、97.5%であった。 ◎児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」と答える児童の割合は、87.5%であった。 □保護者アンケート「学校の様子がよく分かる」と答える保護者の割合は、96.0%であった。 □児童アンケート「さわやかな挨拶をしている」と答える児童の割合は、90.0%であった。 □教職員アンケート「課題発見・解決学習の授業を追究している」と答える教職員の割合は、100%であった。 □教職員アンケート「教育活動に意義ややりがいを感じる」と答えた割合は、100%であった。	4	4	4	さらに児童が地域と自校に愛着と誇りを高めていくために、「ふるさと学習」「ESD」の視点を明確にして教育活動を実施していく。 次年度も地域の方や施設等と連携を図り、地域のつながりを持った教育活動を実施していく。 あいさつ運動や始業時の号令等において、さわやかなあいさつを奨励していく。

※ESD ……環境や貧困、人権などの課題に取り組み、持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。